

平成 22 年度

改善報告書

2. 勧告について

No.	種別	内 容																																																																																																														
1	基準項目	学生の受け入れ																																																																																																														
	指摘事項	<p>1) 過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が、理学部第一部では1.25と高いので、是正されたい。</p> <p>2) 収容定員に対する在籍学生数比率が、理学部第一部では1.29、工学部第一部では1.28、基礎工学部では1.28と高いので、それぞれ是正されたい。</p>																																																																																																														
	評価当時の状況	<p>1) 入学者数比率（過去5年）の平均</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平成17年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平成19年度</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学部第一部</td> <td>1.25</td> <td>1.18</td> <td>1.18</td> <td>1.16</td> <td>1.48</td> <td>1.25</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 在籍学生数比率（平成19年5月1日現在）</p> <p>理学部第一部 ※留年生は内数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">収容定員</th> <th colspan="2">1年次</th> <th colspan="2">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> <th colspan="2">4年次</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">比率</th> </tr> <tr> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>2,430</td> <td>980</td> <td>90</td> <td>673</td> <td>0</td> <td>671</td> <td>0</td> <td>819</td> <td>156</td> <td>3,143</td> <td>1.29</td> </tr> </tbody> </table> <p>工学部第一部 ※留年生は内数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">収容定員</th> <th colspan="2">1年次</th> <th colspan="2">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> <th colspan="2">4年次</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">比率</th> </tr> <tr> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>1,625</td> <td>614</td> <td>48</td> <td>470</td> <td>0</td> <td>433</td> <td>0</td> <td>561</td> <td>79</td> <td>2,078</td> <td>1.28</td> </tr> </tbody> </table> <p>基礎工学部 ※留年生は内数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">収容定員</th> <th colspan="2">1年次</th> <th colspan="2">2年次</th> <th colspan="2">3年次</th> <th colspan="2">4年次</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">比率</th> </tr> <tr> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> <th>学生数</th> <th>留年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>960</td> <td>282</td> <td>0</td> <td>340</td> <td>26</td> <td>275</td> <td>0</td> <td>328</td> <td>27</td> <td>1,225</td> <td>1.28</td> </tr> </tbody> </table>		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均	理学部第一部	1.25	1.18	1.18	1.16	1.48	1.25		収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	19年度	2,430	980	90	673	0	671	0	819	156	3,143	1.29		収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	19年度	1,625	614	48	470	0	433	0	561	79	2,078	1.28		収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	19年度	960	282	0	340	26	275	0	328	27	1,225	1.28
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均																																																																																																										
理学部第一部	1.25	1.18	1.18	1.16	1.48	1.25																																																																																																										
	収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率																																																																																																					
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年																																																																																																							
19年度	2,430	980	90	673	0	671	0	819	156	3,143	1.29																																																																																																					
	収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率																																																																																																					
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年																																																																																																							
19年度	1,625	614	48	470	0	433	0	561	79	2,078	1.28																																																																																																					
	収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率																																																																																																					
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年																																																																																																							
19年度	960	282	0	340	26	275	0	328	27	1,225	1.28																																																																																																					
	評価後の改善状況	<p>1) 入学者数比率（過去5年）の平均</p> <p>本学では、厳密に歩留りを精査するとともに、教育環境・財政の健全性とのバランスをも考慮し、入学者の確保数については入学定員の1.2倍を超えないよう努めることとしている。</p> <p>平成22年度入試では、理学部第一部の入学者数比率は1.19となり、単年度では抑えられたが、前年度までの入学者数比率が高かったため、結果として1.25となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成18年度</th> <th>平成19年度</th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学部第一部</td> <td>1.16</td> <td>1.48</td> <td>1.29</td> <td>1.12</td> <td>1.19</td> <td>1.25</td> </tr> </tbody> </table>		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均	理学部第一部	1.16	1.48	1.29	1.12	1.19	1.25																																																																																																
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均																																																																																																										
理学部第一部	1.16	1.48	1.29	1.12	1.19	1.25																																																																																																										

評価後の改善状況

[改善計画]

現在の状況を単年度で改善することは困難なため、平成 22 年度に引き続き、入学者数を当面入学定員の 1.15 倍程度に抑え、年次計画により順次入学者の抑制を図るものとする。

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平均
理学部第一部	1.48	1.29	1.12	1.19	1.15	1.25

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平均
理学部第一部	1.29	1.12	1.19	1.15	1.15	1.18

2) 在籍学生数比率

在籍学生数比率の改善にあたっては、入学者数を抑制し在籍学生数比率を下げる計画を立案したが、歩留りの上昇により目標が達せられず、理学部第一部は 1.30 となり昨年度計画した数値には届かなかった。基礎工学部は 1.20 となり、段階的に改善が図られている状況である。なお、工学部第一部は 1.18 となり、改善計画どおり在籍学生数比率が低下し、改善が図られた。

理学部第一部

※留年者数は内数

	収容定員	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	比率
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年		
20 年度	2,400	884	112	822	0	666	0	791	125	3,163	1.32
21 年度	2,400	769	96	741	0	820	0	780	117	3,110	1.30
22 年度	2,400	795	79	658	0	738	0	933	118	3,124	1.30

工学部第一部

※留年者数は内数

	収容定員	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	比率
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年		
20 年度	1,650	529	35	556	0	475	0	527	102	2,087	1.26
21 年度	1,700	508	37	468	0	557	0	544	75	2,077	1.22
22 年度	1,750	517	30	466	0	470	0	618	68	2,071	1.18

基礎工学部

※留年者数は内数

	収容定員	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	比率
		学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年		
20 年度	1,020	401	0	327	49	288	0	302	27	1,318	1.29
21 年度	1,080	295	0	439	41	283	0	307	19	1,324	1.23
22 年度	1,140	336	0	340	46	384	0	306	24	1,366	1.20

[改善計画]

理学部第一部、基礎工学部における在籍学生数比率は、引き続き入学者を抑制することにより、段階的に下げるものとする。平成 24 年度までには在籍学生数比率が 1.20 を超えないよう、年次計画により順次抑制を図るものとする。

評価後の改善状況	理学部第一部											※留年者数は内数	
		収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率	
			学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年			
	23年度	2,400	773	83	680	0	658	0	852	114	2,963	1.23	
	24年度	2,400	770	80	656	0	680	0	761	103	2,867	1.19	
	基礎工学部											※留年者数は内数	
		収容定員	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	比率	
			学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年	学生数	留年			
	23年度	1,200	315	0	347	38	294	0	407	23	1,363	1.14	
	(注記：学生数・留年数の人数は、過去の比率を参考に算出した予測値である。)												
改善状況を示す具体的な根拠・データ等 別紙1 大学基礎データ（2010.5.1）表13（抜粋） 別紙2 大学基礎データ（2009.5.1, 2010.5.1）表14													
<大学基準協会使用欄>													
検討所見													
改善状況に対する評定			1	2	3	4	5						

No.	種 別	内 容
2	基準項目	施設・設備
	指摘事項	<p>神楽坂キャンパスでは、キャンパス再構築計画が遅延しており、現状の改善策や新キャンパス構想も検討されているが、校舎の一部は閉鎖されたままであり、教育・研究活動が保証されている状況とは言えない。特に、学生の教育研究活動への支障が図書館、研究室、講義棟に深刻に現れているので、適切なキャンパス再構築計画を早急に策定し実現されたい。</p>
	評価当時の状況	<p>神楽坂キャンパスの問題点である施設の狭隘については、神楽坂キャンパス再構築計画により、既存の 2,3,7,8,9 号館を解体して新校舎（新 2 号館）を建設し、施設の狭隘問題を解消することを見込んでいた。又、図書館が建物中階に位置していることによる安全性利便性の問題についても、新 2 号館内の低層部分に新図書館を設ける予定でいた。このため、既存校舎（2,3,7,8,9 号館）は、再構築計画の進捗によりすぐに解体工事に着手できるよう、使用せずにいた。</p>
評価後の改善状況	<p>1) 新キャンパスの開設について</p> <p>神楽坂キャンパスの教育研究スペースの狭隘問題等を解消するために取得した葛飾キャンパスの整備には、東京都の都市計画決定が必要であるが、平成 21 年 12 月開催の東京都都市計画審議会で審議され、認可を得た。建物整備の進捗状況は、平成 22 年 3 月に基本設計が完了し、平成 22 年 3 月 14 日開催の常務理事会、4 月 14 日開催の理事会で了承を得た。現在は、実施設計を行なっている。また、葛飾区からキャンパス敷地を含めた周辺地域の防災性を向上させる目的で盛土の要望があり、平成 22 年 3 月から盛土工事を行なっている。新築工事は、平成 23 年 5 月着工を予定し、開設は当初計画から 1 年延期し、平成 25 年 4 月を予定している。</p>	

評価後の改善状況	<p>2) 閉鎖中の校舎等の再利用について</p> <p>閉鎖中であった神楽坂校舎の再利用状況は、以下のとおりである。</p> <p>3号館は予定どおり改修工事が終了し、平成21年9月(後期授業)より、2階～5階の教室(14室)の利用を開始した。また、平成22年3月には、5階～8階に工学部(第一部及び第二部)経営工学科の研究室を九段校舎から移転し、4月より利用を開始した。経営工学科移転後の九段校舎の空スペースは、平成22年の夏期休暇を利用して教育研究スペース及び厚生施設に改修する予定である。</p> <p>2・7・9号館については、平成22年3月に改修工事が終了し、4月より利用を開始した。</p> <p>2号館には教室(12室)を設置し、7号館には理学部(第一部及び第二部)の数学科の研究室を4号館より移転し、9号館には事務機能を集約し使用している。</p> <p>今後は、事務室移転後の空スペース及び未改修の8号館について、教室及び厚生施設等への改修を計画している。</p> <p>また、神楽坂校舎1号館の図書館は、13階に教室が設置されていたため、図書館を利用する学生と教室に向かう学生の移動が重なり、E Vが混雑していたが、13階の教室を3号館に移設したことにより、混雑は大幅に緩和した。</p> <p>3) 大学会館の建設について</p> <p>大学会館の新築工事は、計画通りに進んでおり、平成23年3月竣工、4月から使用を開始する予定である。</p>
改善状況を示す具体的な根拠・データ等	<p>2) 閉鎖中の校舎の再利用について</p> <p>別紙3 PLAN2010(抜粋)</p>
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	
改善状況に対する評定	<p>1 2 3 4 5</p>

No.	種 別	内 容
3	基準項目	点検・評価
	指摘事項	<p>重大な問題が相当数あるにもかかわらず、大学として、組織・活動について不断に点検・評価がなされていないのみならず、その必要性について適切に認識もされていない。さらに、提出された『点検・評価報告書』『大学基礎データ』にも重大な不備が複数認められる。自己点検・評価の姿勢・体制・方法に欠陥があり、この点で大学として基礎的要件を満たしていないので、是正されたい。</p>
	評価当時の状況	<p>評価当時における本学の自己点検・評価に係る取組み状況は次のとおりである。</p> <p>(1) 本学ではこれまで大学として外部評価を受けた経験が著しく乏しい(1963年に大学基準協会の加盟判定審査を受けて以降、大学として相互評価などの第三者評価を受けていない)ことから、自己点検・評価に対する取組み姿勢や方法等が成熟しておらず、大学全体及び各部局におけるPDCAサイクルも適切に機能していなかった。</p> <p>(2) 自己点検・評価活動において実効性を考慮した組織体制が確立しておらず、その結果、各組織間の連携や情報の共有化について不十分であった。</p>
	評価後の改善状況	<p>昨年(平成21年7月提出)の改善報告書では、評価結果を踏まえた自己点検・評価に係る全学的な枠組み(組織体制・実施体制)の改善計画を示した。2年目となる本年度は、当該計画に基づく改善への取組状況を報告する。</p> <p>本学における自己点検・評価に係る組織体制及び実施体制等の改善を目的として、平成22年4月1日付で、「東京理科大学自己点検及び評価実施規程」(別紙)の全面改正を行った。本規程は、本学の自己点検・評価活動の根幹となるものであり、自己点検・評価に係る新たな組織体制として、大学評価委員会、専門委員会、大学評価室(事務局)の設置のほか、各部局における自己点検・評価の実施等について定めている。</p> <p>この改正を受けて、平成22年4月22日(木)に第1回大学評価委員会を開催し、各部局における自己点検・評価の実施体制構築に向けた検討を開始するとともに、専門委員会である「基本問題検討</p>

<p>評価後の改善状況</p>	<p>専門委員会」の設置について決定した。基本問題検討専門委員会の役割は、大学評価委員会で取扱う審議事項の具体的検討を行うこととしており、具体的には、大学評価委員会に提案する議案の原案作成や、大学評価委員会において決定した事項の具現化に向けた検討等を行うものである。</p> <p>両委員会の平成 22 年 7 月までの開催状況は次のとおりである。(詳細は別紙)</p> <p>[大学評価委員会] 第 1 回 4 月 22 日 (木) 第 2 回 7 月 8 日 (木)</p> <p>[基本問題検討専門委員会] 第 1 回 5 月 10 日 (月) 第 2 回 5 月 24 日 (月) 第 3 回 6 月 7 日 (月) 第 4 回 6 月 24 日 (木)</p> <p>なお、各部局が実施する自己点検・評価活動及び PDCA サイクルの実質化に向けて、現在両委員会において検討を進めており、特に、昨年提出した改善報告書において改善計画を示した「各部局と学内関連組織 (FD 活動の啓発・支援を所掌する教育開発センター等) との連携強化」については、東京理科大学自己点検及び評価実施規程 (第 7 条第 5 項) として新たに定め、今後具体的な取組みについて検討を行う予定である。</p> <p>また、自己点検・評価活動を総括する事務局の強化を目指し、平成 22 年 4 月より事務総局直轄の大学評価室を設置した。現在、職員は 3 人配属されており、先に記述した大学評価委員会及び専門委員会の担当事務局として、本学の自己点検・評価に係る各種業務を遂行している。</p>				
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等 別紙 4 東京理科大学自己点検及び評価実施規程 別紙 5 大学評価委員会関係資料 (委員一覧、議事) 別紙 6 基本問題検討専門委員会関係資料 (取扱要項、議事)</p>					
<p>< 大学基準協会使用欄 ></p>					
<p>検討所見</p>					
<p>改善状況に対する評定</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>5</p>

＜ 改善報告書検討結果（東京理科大学） ＞

[1] 概評

2009（平成21）年度の本協会による「東京理科大学改善報告書検討結果」を受けて、本年度においても「改善報告書」が提出された。

それによると、学生の受け入れについて、理学部第一部では、入学定員に対する入学者数比率は、2010（平成22）年度入試において1.19であったが、同年度における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.25と高い。また、収容定員に対する在籍学生数比率も1.30と高いことから、学生の受け入れの改善に向けた取り組みや改善状況が十分とはいえない。引き続き適切な定員管理に努めることが必要である。

施設・設備に関して、評価当時に閉鎖中であった神楽坂キャンパスの再利用状況は、改修を要する建物の工事が計画どおり進んでおり、4月から当該建物の利用が開始されているなど改善が見られる。また、事務機能を9号館に集約しており、事務室移転後の空スペースおよび未改修の8号館については、教室や厚生施設などへの改修を計画している。加えて、大学会館の新築工事についても、計画どおりに進んでおり、2011（平成23）年4月から使用を開始する予定となっている。神楽坂キャンパスの教育研究スペースの狭隘問題などを解消するために取得した葛飾キャンパスの整備は、建物の基本設計が2010（平成22）年3月に完了している。また、新築工事は、2011（平成23）年5月着工を予定しており、開設は当初計画から1年延期した2013（平成25）年4月を予定している。新キャンパス建設は1年遅延することから推移を見守らなければならないが、その他の点ではおおむね改善が認められる。

点検・評価については、2010（平成22）年4月に、自己点検・評価に関する組織体制および実施体制の改善を目的として関連規程の全面改正が実施され、この改正を受けて「大学評価委員会」、「基本問題検討委員会」などの体制の整備が図られた。あわせて、自己点検・評価活動を総括する事務局として、事務総局直轄の大学評価室を設置するなど自己点検・評価に関する取り組みが進められており、改善が認められる。

しかし、いずれについても、今後の成果を見極めることが必要であることから、次年度についても改善報告を求める。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

- 1 「学生の受け入れ」について、2011（平成23）年度の理学部第一部における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均および収容定員に対する在籍学生数比率を再度報告されたい。
- 2 「施設・設備」について、2011（平成23）年度における新キャンパス建設の状況を含めて、再度報告されたい。

- 3 「点検・評価」について、2011（平成 23）年度における自己点検・評価活動の実質化に向けた取り組みの進捗状況について、再度報告されたい。

なお、本事項については、2011（平成 23）年 7 月末までに、再度改善報告を求めるものとする。

以 上